

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田朝子

開催月日	令和7年 10月29日(水)～10月30日(木)		
開催時間	令和7年月10月29日(水) 14:30～15:40		
開催場所	京都府京丹後文化会館		
主催者	第17回全国水源の里シンポジウム実行委員会 一般財団法人自治総合センター		
研修会等の名称	第17回 全国水源の里シンポジウムin京都府京丹後市		
講師等の氏名等	基調講演 高橋 博之氏(株式会社 雨風太陽 代表取締役社長)		
内容・結果等	【演題】「集落を超えた広域的な地域コミュニティづくりと人口減少社会における活力の創造」		
	気候変動、農村の荒廃により、鹿、猪、熊などが異常事態に出没している。		
	→ 人間の都合のいいようにしているので、つけがまわっている。		
	自分のこととして考える→地場産物→買うことはできる。粗末にしていないか。		
	「世なおしは、食なおし」「都会と地方をかきまぜる」⇒「関係人口」		
	都会のいいところ、地方のいいところをフラットに見て再配列し、互いの課題を解決しながら、		
	これまでにない価値を一緒に生み出す。		
	「消費者と生産者」「都会と地方」「人間と自然」分断されてしまっている。		
	地方活性化には「特効薬」(対処法)ではなく、「漢方薬」(根治療法)である。		
	他力本願になっていないか…地域の中にある資源を活用し、自ら新たな価値を生み出す姿勢		
	への体質改善に役立つ→「関係人口」		
	足りないもの…完成された消費社会、生きるリアルティ、生きる意欲に飢えている。		
	『生きる』…眠れる都市住民と沈黙する地方住民の「生きる」を呼び覚ます大きなカギ。		
	自分と自分以外の誰かがいた時「生きる」が始まる。現在は、間がない。摩擦がないから		
	熱も生まれない。 ”生きる” リアルティの喪失、相手に対する共感、妥協、犠牲(人間の		
本質的要素)			
【感想】このシンポジウムの理念が「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」とあるが、			
治水・利水の面からも運命共同体ともいえる同じ流域に住まう住民にとってとても重要なこと			
である。人口減少が進む中、平時から「関係人口」を増やすことにより、都市と地方の双方を			
活性化させる道につながっていると学んだ。			
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金額(円)
	研修費・宿泊		23,500
	旅費		37,520
	振込手数料		550
	合 計		61,570

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田朝子

開催月日	令和7年 10月29日(水)～10月30日(木)		
開催時間	令和7年月10月29日(水) 15:55～16:55		
開催場所	京都府京丹後文化会館		
主催者	第17回全国水源の里シンポジウム実行委員会 一般財団法人自治総合センター		
研修会等の名称	第17回 全国水源の里シンポジウムin京都府京丹後市		
講師等の氏名等	コディネーター:杉岡 秀紀氏(福知山効率大学 地域経営学部准教授) パネリスト 井上 泰典氏(株式会社丹後乳販代表取締役) 江草 智子氏(いやさか吉野地域づくり協議会 地域マネージャー) 三本 大介氏(株式会社リバイタライズジャパン代表取締役) 八隅 孝治氏(株式会社あしおと代表取締役)		
内容・結果等	パネリスト		
	井上泰典氏…京丹後で生まれてよかった。その瞬間を増やすために「届ける」仕事から「つなぐ力」へ		
	1939年創業、京丹後で地域密着一筋、86年。先代から受け継いだ思い「医者の前に医者		
	であれ」2025年7月「WAKUWA健康しあわせステーション」設立…体操や講座、カラオケやお		
	しゃべりの場など提供。人が集い笑顔が生まれる、まちの居場所づくりへ。		
	江草智子氏…「みんなでつくろう おもしろえ吉野」		
	子ども対象のイベントがなかった。文化祭、廃校になった校舎を利用。		
	大きなことをやろうとするとしんどい。		
	三本大介氏…地方の魅力を再発見&再構築して町や田舎を元気にする。(地域版ふるさと納税制度)		
	地域に火をつけるむずかしさ、後期高齢者に今の生活の充実さを。地域の保健室。		
	八隅孝治氏…はだして遊べる海を未来へつなぐ(ビーチクリーンの職業化、海ゴミの資源化)		
	年間60回のビーチクリーンを行っている。わくわく感があり、身体にいい。35社からの支援		
	もあるが資金繰りに苦労している。		
	【感想】4人のパネラーのお話を聞いて、まずはそれぞれがこの京丹後市の地、人に根づいて		
	思いとそれぞれスタッフ同士のつながりを強く感じた。キーワードが「笑顔」「一緒に楽しむ」		
であったが、そこに至るまでパネラー一人ひとりの熱い思いを感じた。自立とは、「依存先			
を増やすことであり、ごちゃまぜ、かきまぜで「地方は都市を思い、都市は地方に			
感謝する」連携から連繋へ。本市においてもこの考えを広げていきたいと思ったシンポジウム			
であった。			
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	研修費・宿泊費		(1)に同じ
	旅費		
	振込手数料		
	合 計		

(様式3-1) 研究研修活動記録票(研究会、研修会開催又は参加に要する経費)

嬉野市議会議員

増田朝子

開催月日	令和7年 10月29日(水)～10月30日(木)		
開催時間	令和7年月10月30日(木) 9:00～12:30		
開催場所	京都府京丹後文化会館		
主催者	第17回全国水源の里シンポジウム実行委員会 一般財団法人自治総合センター		
研修会等の名称	第17回 全国水源の里シンポジウムin京都府京丹後市		
講師等の氏名等	A 丹後町コース ユネスコ世界ジオパークの美しい海岸線と百寿健康ウォーキングを楽しむ		
内容・結果等	(現地視察) Bコース: 弥栄町コース…日本の原風景が息づく山間の集落		
	Cコース: 峰山町・久美浜町コース…羽衣伝説の地で、伝統が息づくまちなみ		
	(Aコース)		
	京都府丹後文化会館→道の駅てんきてんき丹後→丹後町: 宇川地区◎百寿健康ウォー		
	キング(山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの美しい海岸線、レトロな漁村の街並みを歩き、		
	京丹後ヘルスツーリズムを体感(約1km～1.5km)		
	宇川アクティブライフハウス(うかわコミュニティ活動拠点の視察と健康長寿の秘訣、百寿		
	弁当)→道の駅てんきてんき丹後→峰山駅		
	【感想】		
	1班20名程度でバスに乗り、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの美しい海岸線を眺め		
ながら、京丹後市最北端の地域「宇川」へ向かった。			
レトロな漁村の街並みを歩き、丹後ちりめんを使っでの運動を体験した。(百寿者の多い			
京丹後市の秘訣を体感した。)お二人の観光ガイドの丁寧な説明を受け、郷土を思う熱い思い			
が伝わった。次に「ふるさとづくり大賞(総務大臣表彰)」を受賞した地域団体「宇川加工所」の			
活動拠点である「宇川アクティブライフハウス」で地場の食材で昼食をいただいた。「無いなら			
自分たちでつくろう!」と地域にないものを作り出し、大学連携の取り組みで地域活性化図っ			
ていた。地域の本気度を強く感じた。			
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	研修費		(1)に同じ
	旅費		
	宿泊費		
	振込手数料		
	合計		